

関係各位

福岡県米・麦・大豆づくり推進協議会
(事務局：J A 福岡中央会 担い手・営農サポートセンター)
(公 印 省 略)

営農情報 5

《ウンカ対策について》

本年は、ウンカ類の初飛来を 5 月 8 日頃と平年に比べ 3 週間程度早く確認し、その後も 5 月 18 日、6 月 12、18、27 日、7 月 6 日頃に飛来を確認しています。

普及指導センターの調査では、6 月 9 日頃の早期水稻で、セジロウンカの発生を確認し、普通期水稻でも 7 月 8 日にトビイロウンカを確認しています。

今後も降雨が続くことから、新たな飛来や早期水稻においても「坪枯れ」が発生する可能性もありますので、ほ場の発生状況に十分注意してください。

○県内予察灯におけるウンカの誘殺数（6 月 1～5 半旬）

	本年	平年	前年	備 考
セジロウンカ誘殺数（頭）	242	41.4	0.0	過去 10 年 間で 3 番目
トビイロウンカ誘殺数（頭）	2	2.9	0.0	

※福岡県病害虫防除所調査

〈防除上、注意すべき事項〉

【要防除水準】トビイロウンカ：中老齢幼虫の合計数

- ・ 飛来後第 1 世代（7 月中旬～下旬）： 20 頭/100 株以上
- ・ 飛来後第 2 世代（8 月下旬～9 月上旬）： 100 頭/100 株以上

【早期水稻】

- ・ 早期水稻は、ほ場の発生状況を確認し、出穂前後の防除を徹底してください。
- ・ 出穂後は薬剤が株元まで到達しにくくなるため、防除にあつては、薬剤が株元まで確実に届くよう丁寧に散布し、散布後に防除効果を必ず確認しましょう。
- ・ 降雨のため、粉剤及び液剤の散布が難しい場合は、粒剤の使用も検討しましょう
- ・ 薬剤防除にあつては、周辺作物への飛散防止に努めるとともに、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を確認し、適切な薬剤散布を心がけましょう。

【普通期水稻】

- ・ 箱施薬剤の効果低下が懸念される早植え栽培では、発生状況に注意しましょう。
- ・ 飼料用米等の中にはセジロウンカに弱い品種もあるため、発生状況に十分注意しましょう。
- ・ 本年度は降雨が多いため、いもち病の発生にも注意しましょう。

以上